おうてんいん・インフォメーション



今後の予定

※詳細は各主催者にお問い合わせください

LECTURE&EVENT

芸術の秋、近々には演劇、コンサートなどが目白押しです。乞うご期待。(舞台芸術祭、寺子屋トーク第5弾については6ページに詳細)

DUOきょうと「リサイタル'97」

箏とヴァイオリン、和洋を代表するポピュラーな楽器が新しい音楽を創りだす。和洋の壁を超えて織りなされるナチュラルな響きをぜひご体験ください。

○9月5日(金)19:00～
○3,000円(前売り2,500円)
○法然院サンガ　TEL 030-27-47289

吉川　肇 アコールデオン・ソロコンサート

関西アコールデオン界の大御所、吉川肇のソロコンサート。土曜の昼下がり、アコールデオンが奏でるシャンソンの世界にひたってみませんか。

○9月13日(土)14:00～16:00
○5,000円
○プリミエル・ミュジケ
TEL 0723-36-4892

9月のトークサロン

好評「トークサロン」は、誰でも参加できるおしゃべりサロン。秋田住職が進行役となって、世代や立場の異なる方々と楽しく語り合います。

○9月13日(土)14:00～
　9月17日(水)19:00～
○無料(要電話予約)
○應典院　TEL 06-771-7641

アジア教育事情とSCJ

知っているようで知らないフィリピン、ネパール、タイ、ベトナムの教育事情について、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの現地スタッフが、写真を交えて報告します。

○9月20日(土)13:30～16:00
○1,000円
○セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
TEL 06-361-5695

太鼓センター和太鼓一日教室「まつり太鼓」

太鼓の魅力を全身で感じる講座。今回は、演目別の一日講座。11月には「太鼓ばやし」、12月には「ぶちあわせ太鼓」の一日講座も予定しています。

○9月21日(日)10:00～16:00
○6,300円
○太鼓センター　TEL 075-392-6975

寺子屋トーク第4弾 CAPスペシャリスト梅原昌子さんを迎えて

CAPとは、米国で開発された、子ども虐待、いじめ防止教育のプログラムです。9月の寺子屋トークは、そのスペシャリストの梅原昌子さんを招いて、子どもが暴力からいかに自分を守るか、単なる防護法ではなく、「自分自身を大切にする」考え方について、ワークショップと講演を行います。ぜひご来聴ください。

○9月10日(水)10:00～12:00
○1,000円(会員500円)
※要電話予約
○寺町倶楽部事務局
TEL 06-771-7641

劇団ヘイルメリー第3回公演「BOXER」

今月の催事で注目は、何といっても應典院での初めての本格演劇公演となる劇団ヘイルメリーの第3回公演「BOXER」です。劇団ヘイルメリーは、寺町倶楽部学生会員で、今回の総会で理事を引き受けてくれた三好宏明君の所属する劇団。應典院本堂ホールがどんな空間に変身するのか乞うご期待。

○日時…8月30日(土)①16:00～、②19:00～
　　8月31日(日)①14:00～、②17:00～
○料金…1,000円
○チケット取扱…チケットぴあ　TEL 06-363-9999
　　Hail Mary　TEL 0743-78-9449
○お問い合わせ…ミジンコ商店　TEL 080-36-90478

寺町倶楽部のこれからの活動を一緒に考えましょう

事務局スタッフ募集！交流会開催

設立総会も終了し、寺町倶楽部の事務局が活動を開始しました。しかし、いろいろな活動を進めていくには多くの方の協力が必要です。そこで、事務局運営をお手伝いしていただける方を募集します。写真、パソコン、ボランティア…、なんでも結構です。自分の得意分野をいかして、できる範囲でこれからの寺町倶楽部の活動を支えていただけたらと思います。

以下の要領で交流会を開催しますので、お手伝いいただける方はぜひご参加ください。当日ご参加いただけない方で、もし手伝っていただける方は、事務局までお電話ください。

○日時…9月12日(金)　午後7時から
○場所…應典院

サリュ VOL.3
應典院寺町倶楽部のニューズレター

発行日　1997年8月20日
(偶数月発行)
編集長　金下玲子
編集スタッフ　池野　亮、綾田直子
発行所　應典院寺町倶楽部
〒543 大阪市天王寺区下寺町1-1-27
TEL06-771-7641
FAX06-770-3147



應典院寺町倶楽部のニューズレター

Salut

［サリュ］
フランス語で救いの意

1997 AUGUST
vol.3



應典院寺町倶楽部の誕生

家族、学校、職場などなど、私たちはいろいろなつながりの中で暮らしています。従来のお寺の伝統的なつながりといえば檀家制度ですが、これは檀家さん以外の方には新しいつながりを閉ざしてしまう要因でもありました。

應典院寺町倶楽部は、應典院に檀家として連なるものでは決してありません。應典院という場所、そして應典院の目指す「こころの文化」を共に耕すための、都市の中の新しいつながりです。

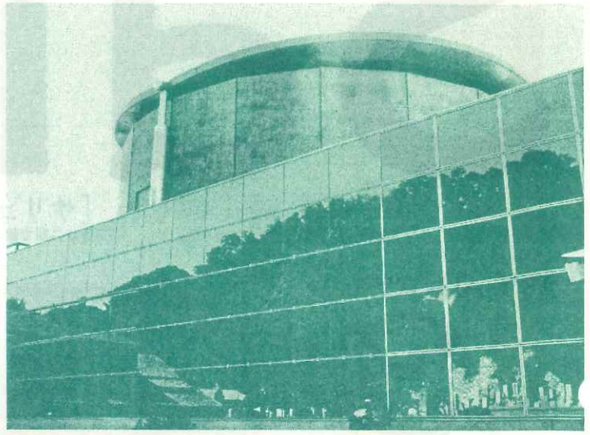
新しい試みです。應典院寺町倶楽部には、まだ形や手触りが生まれていないかもしれません。それを集ったみなさん、一人ひとりの手で築き上げていきたい。そのために、まずお互いの心を開き、自ら行動していくことが大切だと思います。

とはいっても、形のない物に手触りを与えることは難しいものです。とまどい、議論、そういうことが沸き上がることでしょう。ただ、それを「誰かに決めてもらう」という態度では、何も開かれて行きません。

ゆっくりと、しっかりと、ネットワークを広げていきたいと思います。そのためにもみなさまの一歩を、講座や集いへ足をお運びいただき、または、このサリュ誌面を通じての参加をお願いしたいと思います。

いま、はじめの一歩を…

7月18日、設立総会開催さる！



去る７月18日(金)、應典院寺町倶楽部設立総会を開催しました。当日は、29名のご出席(委任状116名)があり、会則、役員人事、活動目標と事業計画、予算について審議、ご承認いただきました。総会後は、会員のみを対象とした初めての交流会。寺町倶楽部への思いを語り合う輪があちらこちらに広がり、それぞれの輪がひとつの大きなうねりとなって、大きく動き出した思いがします。

寺町倶楽部がスタートして４ヶ月足らず、ようやく組織も確立し、本格的に活動を開始していきます。寺町倶楽部は、会員のみなさん一人ひとりが主役です。今後の活動に、ぜひいろんな形で参加してください。

理事長あいさつ

田村　精造



寺町倶楽部はこれまでにないパターンの集まりです。しかし、これも社会の要求だと感じています。ほんとうにさまざまな分野、年齢の方々にご参加いただき、驚いています。このつながりが、どういう風に発展していくかはまだわかりません。ぜひともみなさんの力をお借りして、大きく広げていきたいです。

私は常々、「心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人生が変わる」ということを考えています。寺町倶楽部にかかわっていただくことが、みなさんの心が変わるきっかけになればと願っています。



事務局長あいさつ

西島　宏



應典院が街に、社会に開かれた寺院として、具体的に成立していくためには、寺町倶楽部の存在が大きな意味を持ってきます。「こころの共感」だけで自主的に集まった私たちが、自主的に活動していくわけですから、今までにないユニークで、そして多面的なお寺との関係が生まれてくるものと思います。

私の役目はスタッフのみなさんとともに、倶楽部の会員のニーズを汲み上げ、それを起案し、実現していくことにあります。当面の、そして最大の目標は……、とりあえずもっと多くの会員を獲得することと、みなさんに事務局スタッフに加わっていただくことです。これからの寺町倶楽部の発展のために、ぜひご協力ください。

■役員人事(敬称略)

・理事長	田村　精造(賛助会員：パドマ幼稚園後援会会長)		三好　宏明(学生会員)
・副理事長	西島　　宏(一般会員：應典院プロジェクト)		吉﨑　　中(一般会員：應典院プロジェクト)
	三原　敏彰(一般会員：パドマ幼稚園ＰＴＡ会長)	・監　査	扇谷　順介(賛助会員：應典院総代)
・理　事	川口　圭子(一般会員)		志野　義治(賛助会員：應典院総代)
	栗本　智代(法人会員：大阪ガスエネルギー文化研究所)	・参　与	秋田　光茂(大蓮寺住職)
	北　達一郎(一般会員)		秋田　光彦(賛助会員：應典院住職)
	名畑　　孝(一般会員)	・事務局長	西島　　宏(副理事長兼務)

應典院寺町倶楽部会則

第１条（名称）
本会は、「應典院寺町倶楽部」と称する。

第２条（所在）
本会の事務局は、應典院内に置く。

第３条（目的）
本会は、應典院の活動趣旨に賛同し、寺院空間を活用した文化・芸術等の活動を通じて、会員相互が精神的に豊かな交流を得ることを目的とする。

第４条（活動）
本会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。
１）会員相互の交流を図る催しの開催
２）文化講演会・講座の開催および協賛
３）文化・芸術などのイベント開催および協賛
４）表現活動や発表会の開催および協賛
５）上記に関する各種出版、広報活動
６）上記に付帯するいっさいの業務

第５条（組織）
本会は、目的に賛同し、会費を納入した会員によって組織される。

第６条（役員）
本会に、次の役員を置く。
理事長　　１名
副理事長　２名
理事　　若干名
監査　　２名
参与　　２名
事務局長　１名（ほかに事務局員）

第７条（役員の任務及び選出方法）
１）理事長は、理事の互選によって選出し、総会の承認を受け、本会を代表する。
２）副理事長は、理事の互選によって選出し、総会の承認を受け、理事長を補佐し、理事長事故ある時は、その職務を代行する。
３）理事は、総会において選出し、本会の会務を審議、執行する。
４）監査は、総会において選出し、本会の会務及び会計を監査する。
５）参与は、理事会が委嘱し、本会の会務に協力する。
６）事務局長及び局員は、理事会が委嘱し、本会の運営にあたる。

第８条（任期）
役員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

第９条（会議）
１）本会の総会は、毎年１回開催し、事業報告ならびに決算報告を行う。
２）理事会は、原則として年２回開催され、会務について協議、決定する。ただし、必要に応じて監査、参与を召集し、意見を求めることができる。

第10条（経費）
本会の経費は、会費、活動収入、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。

第11条（会費）
会費は、年額、賛助会員５万円、団体（法人）会員３万円、一般会員１万円、学生会員３千円とする。

第12条（会計・決算）
事務局にて会計を担当し、理事会の決議により、監査を経て、総会にて決算報告をする。なお、会計年度は、毎年５月１日に始まり、翌年４月末日に終わる。

第13条（会則の変更）
会則の変更、追加は、理事の３分の２以上の同意をもって行うことができる。

付則　本会則は、１９９７年５月１日より執行する。



■活動目標と事業計画

１．活動目標
１）会員募集
今年度目標400人
２）事務局スタッフの充実と機能の強化

２．事業計画
１）会員交流事業
２）講演会・講座事業
・寺子屋トーク
（年間10回程度実施予定）
①５月　金　香百合さん
（大阪ＹＷＣＡ幹事）
②６月　山崎　高哉さん
（京都大学教授）
※上記は、パドマ幼稚園ＰＴＡ助成企画
③７月　上田　紀行さん
（東京工業大学助教授）
※新日本宗教団体連合会青年会共催
④９月　梅原　昌子さん
（ＣＡＰスペシャリスト）
⑤10月　衛　　紀生さん
（演劇評論家）
３）イベント事業
・５月　橋口譲二写真展
・10月　舞台芸術フェスティバル
４）サポート事業
５）出版・広報事業
・会報「サリュ」の発行（年６回）
６）その他
應典院が主催する事業に対する応援・協力

■予算について

〈収入の部〉

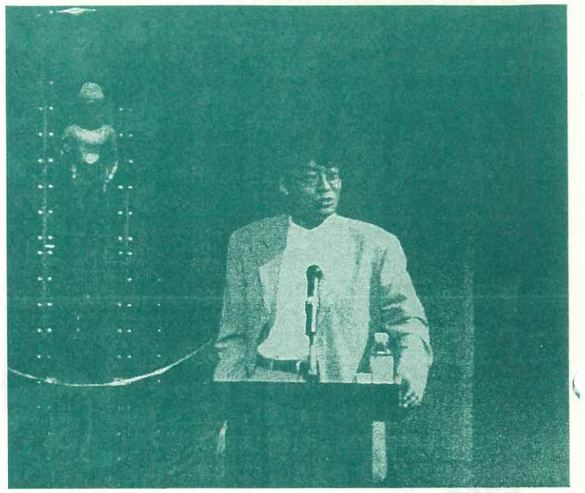
１．会費収入	４，０００，０００
１．事業収入	７００，０００
１．寄附・助成収入	３００，０００
計	５，０００，０００

〈支出の部〉

１．事業費	１，８００，０００
１．出版費	１，２００，０００
１．事務局運営費	１，０００，０００
１．予備費	５００，０００
１．雑　費	５００，０００
計	５，０００，０００

EVENT REPORT

第2・3回寺子屋トーク開催
上田氏講演には142人が参加!



さまざまな分野からゲストを招き講演いただく寺子屋トークの第2・3回が、それぞれ6月23日、7月14日に開催されました。

6月23日の講師は京都大学教育学部教授の山崎高哉さん。山崎さんの、これからの地域と家庭教育の役割を考えるトーク「新・家族物語／地域から母子の明日を考える」は子育てまっ最中のおかあさんを中心に45人が聴講されました。

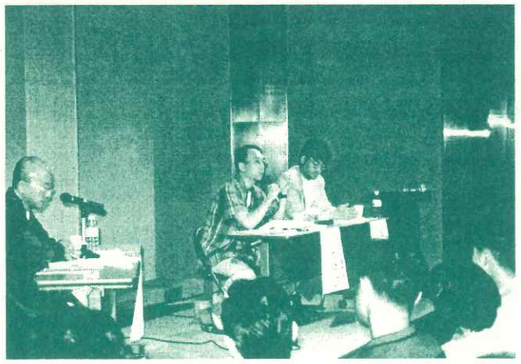
そして第3回は、7月14日の東京工業大学大学院助教授の上田紀行さんなどを迎えた講演とトークセッション「癒しの時代をひらく〜私の中の私〜」。「癒し」に対する関心の高さを示すように、100人の定員を大幅に上回る142人が来場、会場となった本堂ホールも大変な熱気に包まれました。今回は第3回の様子を中心にお伝えします。

癒しの時代をひらく〜私の中の私〜

「癒し」研究の第一人者、宗教人類学者の上田紀行さんの講演は、癒しがおかれている状況、宗教にどのような力、使命があるのか、どのように癒しの時代をひらいていくのかーという視点で進められました。

中でも印象的なメッセージとして投げかけられたのが、自分を常に何かの周辺に位置し、自分自身に中心性を見い出せない「日本人の中心意識の欠如」とその根底にある日本というシステムについてでした。

これは、現在の安易な方向へ流れがちな「癒しブーム」に対する上田さんからの警鐘でもあったわけですが、上田さんは、この数カ月間、日本中が注視してきた神戸小学生殺傷事件についてもこの視点から触れ、私たちがこの事件をどう考えるのかということにも深い示唆を与えてくれるものになりました。



上田さんの講演に続いて、上田さん、新宗連青年会事務局長の竹嶋克之さん、應典院住職の秋田光彦さんの三氏が、トークセッションを行いました。

以下は講演の要旨。

神戸の事件について

「存在」という言葉が（神戸新聞社宛の手紙の中に）9回も出てくるということに対して存在感の病、透明な存在に皆がなっていくという病を感じる。また、学校や家庭などに問題があったとする悪者探しに終始していることも問題。癒しという視点で見れば、なぜ悪いところができたのかという反省が必要で、これがなければ悪いところがまた出てくる。

癒しのおかれている状況

癒しの歴史について触れると、癒しには「つながり系の癒し」「断ち切り系の癒し」がある。

人は周囲の人とのつながりや支えられているという感じを持つ時に生きる力を持つことができる。これが「つながり系の癒し」。ここで、日本というシステムを考えると、日本には本当の自分を出すと嫌われるという、人を自由にしないつながりの存在が見えてくる。この日本型のつながりというのは、いい点をとったらとか、ノルマを達成したらなどという条件つき。つながりとはよく似ているけれども違う、しがらみ。

また、人とは違う「臭さ」が出てくると排除される方向があり、透明な、臭いのしない存在に自分自身を追い込んで、皆自分は被害者と感じている。だから、しがらみを断ち切り、ノーと言えることが必要になってくる。これが「断ち切り系の癒し」につながる。

日本人の中心意識の欠如

日本人には周縁意識が強い。誰かのためにということは、誰かのせいにできるということで、責任はとらないということ。誰もに中心があるものなのに、中心意識が欠如している。

自分が中心性でなく、創造的に生きていない時、人は存在感を得られなくなり、自分を傷つけるか、他者を傷つける。人は自分を傷つけるという痛みに自分自身を確認でき、他者を傷つけることで全能感に浸る。神戸の事件もこの全能感に関係があるのではないか。



宗教とこれからの癒し

宗教についても同様で、普通の会社と似たようなシステムになっている教団宗教はすでに終わったと思う。宗教というのは、教えに出会ったり、創り出していくところという原点に戻るべきだと思う。

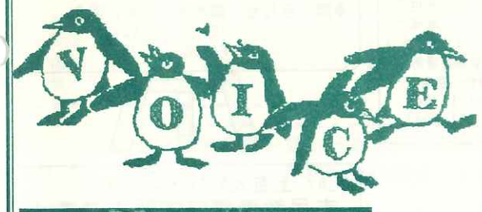
そこで、いくつかのポイントをあげていくと、まず第1に「おすがり」はだめということ。一旦は救われるが最終的には創造性を奪うということになるし、おすがりということは自分が周辺にいるということだから。

第2にシステム自体が自分たちを縛っていることを本当に認識すべき。創造性がなくなり、効率性が尊重され、人の目を気にする人たちがたくさんいて何にも言えない状況になっていれば、宗教であっても会社であっても、学校であっても同じこと。

そのシステムを越えていくにはかなりの強靭さが必要になってくるが、逆にある種の適当さを強調したい。

道を求めながらも適当な自分を受容していくことも必要。人間の喜怒哀楽を味わい尽くすところから、世界がひらかれていくと思う。

（文責：金下）



寺町倶楽部協力事業「南の風フェスティバル」

去る6月22日、シャプラニール25周年全国キャラバン・関西のつどい「南の風フェスティバル」（主催＝シャプラニール関西・アーユス関西、協力＝應典院寺町倶楽部）が應典院で開催され、会場は約200人の来場者でにぎわいました。当日の運営はシャプラニールの会員の方々と寺町倶楽部会員からのボランティアで行われました。当日の様子をシャプラニールの会員やボランティア、来場者の声をもとにお届けします。



今回お話を聞かせていただいたのは次の4人の方々です。

- 北河原孝子さん
  （シャプラニール奈良連絡会代表／チャイ＝バングラデシュのお茶コーナーと手工芸品コーナー担当）
- 鶴本宣朗さん
  （寺町倶楽部会員／ボランティアとして参加）
- 藤田尚史さん・礼子さん夫妻
  （寺町倶楽部会員）

◆　◆

開場は正午。最初はチャイやカレーなどのミニ・バザールとワークショップ（サリーの着付け／識字教室など）が行われました。北河原さんは、3人の友人とご自身の3人の娘さんの助けを借りて、チャイの準備、販売をしたそうです。

「チャイは300人分用意しました。チャイは入場料に含まれていたので、足りなくならないように気を使いましたが、なんとかうまくいったんじゃないかしら。工芸品は、ジュート製品などの小物がよく売れました。でも、みなさんに見てもらおうと思っていた大きな作品が手違いで会場に届かなかったのでそれが残念でした」

また、北河原さんは、手工芸品のような「もの」を通してバングラデシュを知ってもらうことに格別の思いがあるそうです。

「以前、バングラデシュの働く女性と話をする機会があったのですが、どういう援助が欲しいのか、という質問に、何かがして欲しいのでなく、仕事が欲しいと言われた。それから私は彼らの、『自分たちは働きたい、製品がつくれるんだ』ということに対する援助をしようと思いました」

チャイコーナーの隣のカレーコーナーでも本場の味が体験できたようですが、皆の感想は「辛い！」でした。ただ、藤田尚史さんは、もともとインド料理が好きで本場のカレーを作ったりしていたそうなので、特に辛いとは思わず、おいしく食べられたそうです。

14時からは、本堂ホールでバングラデシュの紙芝居（巻物状の紙芝居です）やインド古典舞踏「バラナ・ナティヤム」が行われました。

全体を通した感想を藤田礼子さんに聞いてみました。

「これまでヨーロッパのものには触れる機会が多かったのですが、アジアのものにこのように接したのは初めてでした。身近に感じられるようになったような気がします。バングラデシュの家庭の様子などを見せてもらえるようなコーナーがあればもっとわかりやすかったと思います」



フェスティバルは16時で閉会しましたが、設営から、撤収までボランティアとして参加してくださった鶴本さんは、一日を振り返って「会社の仕事とはちがう、いろんな人と出会うことができて楽しかった」と話してくれました。

シアトリカル應典院　舞台芸術祭
SPACE×DRAMA '97

「気づき・学び・遊び－こころの文化創造拠点」がコンセプトの應典院寺町倶楽部。その活動の一環として、10月3日より11月3日の1ヶ月間、「舞台芸術祭― SPACE× DRAMA'97」を開催します。

この舞台芸術祭は、5月の橋口譲二写真展と並んで、今年度の倶楽部の大きなイベント事業です。應典院本堂ホールという他の小劇場にはない異界性空間で、演劇、舞踏、音楽などのアーティストたちが、「場」の持つ個性を昇華し、新たな作品として発信する実験的な試みが本企画です。それぞれのアーティストがどのように独自の世界を創りあげるのか……、ご期待ください。

PLAY 南船北馬一団
忱映綺譚（しんえいきたん）
～アリスのサンプルポートレート

10月3日(金)19:30～
4日(土)①15:00～、②19:00～
5日(日)①14:00～、②18:00～

「不思議の国のアリス」をモチーフに、他者との出会いを求める女子高生と幻想に生きる男を描く。扉の向こうのワンダーランドは、原作者ルイス・キャロルの物語の中。奇妙なキャラクターたちと愉快な時を過ごすアリス。しかしいつしか笑顔はひきつっていく。現実感を失った時代に生きる私達のポップでコミカル、そしてホラーな物語。

◆料金：前売1,500円、当日1,700円、寺町倶楽部会員1,350円
◆前売取扱：チケットぴあ
◆問い合わせ:森内倫子 TEL&FAX06-771-5834

WORKSHOP 平田オリザ
からだで「地域」を創造する

Aプログラム：一般対象
10月13日(月)16:00～20:00
Bプログラム：学生対象
10月14日(火)17:00～20:00

演劇による、新しい「地域」の創造を目指す、ワークショップ。演劇とは何かを、参加者が主体的に問いかけ、自ら考え、語り、表現します。それは、わたしたちが生きる、これからの地域を創造すること。流れていく時間を身体でつなぎとめ、新たな感性でこれからの地域を書き直す。新しい地域の物語を、平田オリザとつくってみませんか。

◆定員：ABともに20人(詳細の参加要項あり)
◆受講料：無料（定員を超えた場合、選考）
◆問い合わせ：應典院 TEL06-771-7641 FAX06-771-5943

WORKSHOP 松本昇三
もっとやさしく、もっとあたたかく
～演劇を通して自分を見つめなおす

10月19日(日)14:00～16:00

子どもとおとなそれぞれにとって、自分らしさを演劇を通して探してみよう。ありのままの「わたし」をどのように見いだし、表現するか。他者を演じながら、自分を発見することの可能性を、ワークショップを通して体験する。

◆受講料：3,000円（当日のみ）、寺町倶楽部会員2,700円
◆問い合わせ：関西子ども文化協会 TEL06-701-9292 FAX06-704-7918

PLAY 上海太郎ひとり芝居
市民教養講座学問のススメ

10月31日(金)19:00～
11月1日(土)①15:00～、②19:00～
11月2日(日)15:00～
11月3日(祝)15:00～

昔、教科書で見かけたことのある一見難しそう理論も、上海先生のこの講座ですっきり理解。"進化論"や"エントロピーの法則"など、自然科学の理論・法則を作品のテーマとして多く扱ってきた上海太郎が、あらゆる分野の学問をわかりやすく、演劇的な視点で解説します。これまでの作品の中から特に教養のあふれるシーンを抽出、さらに新作を加えておおくりするひとり芝居です。

◆料金：前売3,000円、当日3,500円、寺町倶楽部会員2,500円
◆前売取扱：チケットぴあ、チケットセゾン
◆問い合わせ：上海太郎舞踏公司 TEL06-477-0291

MIME&MUSIC 吉岡賢治と嵜田ハヂメのポケット劇場
吉岡賢治パントマイム公演KENPAL3号
10月9日(木)19:00～
11日(土)①15:00～、②19:00～
嵜田ハヂメとゴヒローオーケストラ金曜夜市
10月10日(祝)19:30～
吉岡賢治と嵜田ハヂメのポケット劇場
10月12日(日)19:00～

『KENPAL3号』今公演は2部構成からなり、1部は日常をモチーフにした笑える作品集。言葉がないからおもしろかったり、日常に何気ない動作の滑稽さをパントマイムで表現。2部は、笑えるというよりも、見ていて楽しかったり、ほのぼのした気持ちになれるような世界を吉岡賢治独自の視点で捉えた、クールな長編作品。

『吉岡賢治と嵜田ハヂメのポケット劇場』1995年に結成した吉岡賢治と嵜田ハヂメによるユニット。ミュージシャンである嵜田氏がも楽器・ガラクタ・おもちゃなど、ありとあらゆる音の出る物を駆使してパントマイムに音をつけ、逆に音から連想する物、動作などをパントマイムで表現したりと、物を使わないパントマイムと目には見えない音（音楽）の利点を最大限に生かしたパフォーマンス。

◆料金：前売り2,000円、当日2,200円、寺町倶楽部会員1,800円
◆前売取扱：チケットぴあ
◆問い合わせ:KENPAL TEL&FAX06-877-5686

LECTURE 奥村和己
こどもと演劇を考える

10月18日(土)19:00～21:00

若者たちの演劇ブームから、どんな意味が読み取れるでしょうか。高校演劇指導のベテランが、子どもと演劇の関係のなかから、これからの演劇の可能性を解読します。

◆受講料：1,500円（当日のみ）寺町倶楽部会員1,350円
◆問い合わせ：関西子ども文化協会 TEL06-701-9292 FAX06-704-7918

第5回寺子屋トーク
芸術文化NPO／地域社会再生を考える

いま、新しい地域社会の再生を芸術文化を核に実現しようとする試みが各地で取り組まれています。地域再生のために芸術文化はどのように活かせるか、またその親和的なありかたをどのように実現するか、演劇評論家・衛紀生を中心に、ゲストを交えながら語り合います。

◆講　師：衛　紀生
◆ゲスト：薦田　夏（関西子ども文化協会）、秋田光彦（應典院住職）
◆日　時：10月22日（火）14:00～16:00
◆受講料：1,000円（当日のみ）、寺町倶楽部会員500円
◆問い合わせ：應典院　TEL06-771-7641、FAX 06-771-5943

〈衛　紀生〉
'47年東京生まれ。演劇評論家、舞台環境フォーラム代表、神戸シアターワークス代表。演劇をはじめとする芸術文化と行政、地域の新しい関係づくりを積極的に提言。主著に『これからの芸術文化行政』『阪神大震災は演劇を変えられるか』『芸術文化行政と地域社会』など。

Q&A 應典院の施設利用のご案内

考え方、工夫次第でなんでもいろんな使い方ができるもの。應典院という空間も、見方を変えればいろんな利用の仕方が考えられます。会員のみなさんも、ぜひいろいろな形で自己表現の場として活用してください。

Q．2階の壁面に写真を飾っていますが、壁面だけを使って写真や絵画などの展示をすることはできますか？

A．できます。1階のスロープ部分と2階の気づきの広場の壁面には、ワイヤーシステムで写真や絵画の展示ができるようにしています。他の壁面も、展示の仕方を工夫すれば展示可能ですので、ちょっとした個展を開催することは可能でしょう。会員のみなさんの自己表現の場として利用していただけるよう、料金についても大きなご負担にならない程度に考えています。ただし、他の催しとの兼ね合いがありますので、日程、展示可能場所については、事前にご相談ください。

Q．1階の交流広場にたくさんのチラシがありますが、他の会場での催しのチラシも置いていただけるんでしょうか？

A．今あるチラシは、應典院が会場の催しのものや應典院と関係のある市民団体、小劇場やイベントスペースのものを、内容を吟味して置いています。ですから、なんでもかんでもというわけにはいきませんが、できるだけご希望にそいたいと思いますので、ご相談ください。会員のみなさんの自己表現活動のサポートができれば、とてもうれしいです。もちろん應典院を会場として利用していただければ、もっとうれしいです。

Q．よく教会では結婚式を見かけますが、お寺で結婚式というのはあまり聞いたことがありません。應典院で結婚式をするということは、考えられないのでしょうか？

A．現在、教会や神社で行われる結婚式はいわゆる神前式。他にも人前式などのスタイルが最近ありますが、お寺でも昔から仏前式といって結婚式を行っています。もちろん今でも仏前式で結婚式を行うカップルはたくさんいます。應典院でも、もしご希望があれば結婚式を行いたいと考えていますが、結婚式のノウハウはありませんから、ホテルや結婚式会場のような形で行うことは難しいでしょう。ですから、結婚するカップルと一緒に、形通りのものではなく、他にはない手作りの結婚式を考えていければいいなと思っています。ぜひ、自分たちだけのオリジナル結婚式を一緒に考えてみませんか。

【新入会員ご紹介】

（1997年8月11日まで）

6月9日以降にご入会いただいた方々です。ありがとうございました。

○一般会員

【東京都】
吉田　潔　大田区

【大阪府】
加藤　玄哲　大阪市中央区
芦辺　康徳　大阪市天王寺区
洪　愛子　大阪市天王寺区
岡　早苗　大阪市阿倍野区
林　妙子　大阪市平野区
木田ふみ代　大阪市浪速区
沢田やすよ　大阪市住吉区
諸岡　晶子　寝屋川市
森　和子　枚方市
森　通　枚方市
奥野　修　大東市
落合　誠一　東大阪市
小島　崇　羽曳野市
坂口　克行　堺市
橋本智恵子　堺市

【京都府】
虎若佐多士　京都市南区
神谷　潔　京都市左京区

【奈良県】
東山ひろみ　奈良市
鶴本　宣朗　香芝市

【兵庫県】
山崎あおい　三田市

○学生会員

【大阪府】
采女　徳子　東大阪市

○法人会員

【兵庫県】
正覚寺　伊丹市

【佐賀県】
専称寺　多久市

以上24名、現在303名

應典院掲示板

應典院の、お寺としてのインフォメーションをお知らせする「應典院掲示板」、今号からスタートです。

應典院、初の説教＆写経の会

去る7月19日、2時と7時の2回、だるまトーク＆写経の会が開催されました。恒例のトークサロンの仲間たちから呼びかけの始まったこの会、秋田住職の仏教のお話と「般若心経」の写経がセットの内容。あわせて17名の参加がありました(写真)。

「ぼくもいささか緊張してしまい、お説教が冗漫だったかな、と反省しています」と、秋田住職。でも、初めての写経体験に感激したという声も多く、参加者同士、仏教の話に花が咲きました。

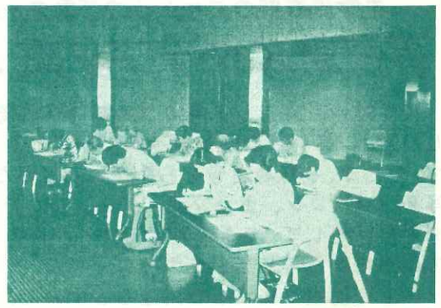
次回は11月に開催の予定です。

秋の巡礼バスツアー、参加者募集！

10月19日（土）、大蓮寺・應典院共催の秋の巡礼バスツアーが開催、法然上人遺跡の東大寺指図堂や法然寺など、大和路を巡ります。お昼は、当麻寺の名物精進料理。どなたでも参加できますので、お友だちお誘いあわせの上、ふるってお申込みください。詳細は事務局までお問い合わせください。

テレビ大阪で、應典院が紹介

8月16日(土)朝8時半「おしゃべり経済Q」（テレビ大阪19Ch）で應典院の写経会の模様が、紹介されました。ユニークなお寺の活動を集めた特集番組で、地縁や檀家制度の移り変わりとともに、生まれ変わるさまざまな試みについて放映されました。



▲写経会のようす